



～キリストの愛の精神にもとづき、こどもたちの未来と地域福祉の向上に努めています～

特集

「ICT化・DX(デジタルトランスフォーメーション)のとりくみ」

コロナ禍を経て一気に加速したICT環境。

こどもたちの生活場面、職員の働く環境にも、ICT化・DX(デジタルトランスフォーメーション)の大きな波を避けて通れない時代を迎えています。

今回は、二葉における推進のための取り組み、その光と陰など課題も含めた生の声を紹介します。



こどもたちの日常生活とICT



以前よりこどもたちがパソコンに触れる機会の多かった児童養護施設では、小中学校からもタブレットPCを貸与され、高校生もスマートフォンを所持するのが当たり前になっている中で、通信端末に触れる機会がさらに多くなりました。使用のルールをこどもたちと一緒に考えるのはもちろんのこと、1台1台の管理についても職員は行っていかなければならないため、苦慮しながら対応を行っています。

一方、吸収するスピードが圧倒的に早いこどもたちは、漢字の“つくり”を当てるゲームにいそしんだり、タイピングのゲームに熱狂したりしています。テレビも好きな番組を録画してみるのがスタンダードだったのが、とあるユニットでは動画配信サービスを契約し、好きな映画を好きな時に見るのが当たり前。操作方法がわからない職員にこどもが「ここ押すんだよ！」なんて教えるなんて風景も。

とはいえ、様々なトラブルがあるのも事実です。

ただ、こどもたちが社会に出た後に大きな失敗をしてしまうよりも、施設にいるうちに失敗体験をすることが大切であると考えます。

ネットリテラシーを学びながら、IT社会で生き抜いて力をこどもたちにどう身に付けてもらうか、地域・支援者の方のお力も借りながら、よりよい方法を考えていければと思っています。



*グループホームにてこどもがパソコンを使っている様子



*学校貸与のタブレットは職員がこどもの人数分管理をしています



二葉乳児院では昨年度「記録システム」を導入しました。長らく手書きで記録を行ってきたのですが、プロジェクトチームで情報の整理をしないといけないねと話が上がり、また他施設の経験がある職員から「こんなに手書きでやっていることに驚いた」という声もあったことから、職員へのアンケートを経て、システム化を進めた経緯があります。

手書きに慣れていたこともありますが、今まで使っ

ていたフォーマットが、ある意味「完成系」であったため、開発に向けた業者さんとのやりとりではシステムとして出来ること・出来ないこととのギャップや、乳児院の仕事の特殊性を伝える難しさがありました。

しかし、実際に導入をして使い始めてみると、思ったよりも職員の皆さんがすぐに慣れて使えるようになり、人によるかもしれませんが記録にかかる時間も若干短縮出来た気がします。また、今までは他のユニットの様子は出向いて行かなければわからなかったのですが、システム上でわかるようになったので、情報共有をしやすくなった気がします。また使う紙もだいぶ減りました。

一方で簡単に情報にアクセスできる分、今までは出向いて直接顔を合わせていたからこそ伝えられたニュアンスであったり、リアルタイムの情報だったりやキャッチしづらくなったということもあるため、関係機関との連携やOJT等の人材育成の場面においては工夫が必要かなと感じています。

まだまだ導入して2年目と間もないので、紙や対面でのコミュニケーションが必要な部分との整理や、まだ使いこなせていない機能の活用なども少しずつやっていけたらいいなと思っています。

(二葉乳児院 保育士 青木 晴香)

COLUMN

ICT・DXに想う①「チャレンジ&チェンジ」

理事長 井上 従子

2020年、都のコロナ対策のテレワーク推進補助金を活用し、管理職・事務職の在宅勤務用タブレット等を配備したことも契機となって法人内でICT化が加速し、今や、オンライン会議やリモートでの研修などは当たり前になっています。複数の拠点が分散する当法人でのメリットは大きいと言えます。

最近言われるDXは難しく思われますが、業務負担軽減やデジタルネイティブ世代の若手職員確保には不可欠です。法人内では、事務処理や記録などの効率化、職員間ではもとより保育園児保護者なども含む情報の共有・見える化などのために、現場で相談・工夫を重ねながら着実に取組みが進められています。

同時に、パソコンやアプリなどハード・ソフト両面の選定・管理、セキュリティ対策など技術的問題、コミュニケーションの情報機器依存、子ども達をも巻き込むネットの脅威など、様々な課題にも直面しています。働きやすい職場づくりとともに子ども達のより良い日常に資するICT化・DXをめざし、チャレンジ&チェンジを続けられるよう、AIの動向学習なども含め取り組んでいきたいと思っています。



保育現場の業務削減のためのICT化にかかる費用への補助金が出ることで決まったタイミングで、園内で検討を行い、統合型支援システムの導入を2021年に行いました。多くの保育園で導入実績があったことも決め手で、法人内の二葉くすのき保育園も同じシステムを導入しています。

今までは、登降園の時間は保護者に紙に書いてもらい管理していましたが、今はタブレットPCに表示されるQRコードを読み取る等して打刻をしてもらっています。欠席等の連絡もアプリを通じて登録することができ、お互いに連絡しやすくなったと保護者の方や職員からは良い反応です。園からのお知らせやアンケートも一斉配信ができるため、ペーパーレス化も進



み、とても便利になっています。

また保育計画や日誌等についてもこちらのシステム内で作成することができ、上手に使うと作成時間を短縮できるようになっています。次年度は試行的に特定のクラスで連絡帳機能も活用してみようかと考えています。

(二葉南元保育園 園長 橋爪主税)

COLUMN

ICT・DXに想う②「急流の中で」

ここ最近、税金や社会保険料などの事務手続きや登記関係などの電子化が急速に進んでいます。法人内でも、従来から導入していた財務会計や給与のシステムに加え、給与明細発行や年末調整を電子化し、現行人事情報システムも導入準備中です。また、オンライン会議のためのソフト・ハード両面での整備も進め、管理者会や理事会・評議員会でも本部会議室に設置した電子黒板が大活躍しています。

つい数年前と比べても、本当に便利になった、業務効率化が進んだと実感する日々ですが、法人内事業所の業務対応のためのICT導入や職員の増加に伴うパソコン台数の急増、ICT利用増に伴う通信環境のニーズ、クレジットカードなど電子決済導入など、多岐に渡る対応も必要となってきています。また、関連ソフトなどを含めたICT関連の経費の管理も(可能であれば圧縮も)必須となっています。

法人本部事務主任 百瀬 圭吾



「Instagramはじめました！」 二葉くすのき保育園



開園48年を迎える当園は大規模都営団地の一角に園舎を構えています。昭和時代の歴史を感じさせる外観ではありますが、その園内は隅々まで掃除が行き届き、手作り装飾・手作り遊具の温かみ溢れる保育園。自然豊かな園庭も構え、子ども達の活気に満ち溢れています。そういった明るく生き生きとした園の様子を入園希望の方々へもっとアピールしていきたい！という想いから他事業所での先行事例もあるInstagramを始めることにしました。

嬉しいことに、在園家庭からのフォロワーも多く、保護者の方々に当園での出来事・様子をより身近に感

じて頂くことができるのではないかと、また発信する職員側は改めて園の魅力を実感し、くすのき保育園で働くことに誇りを持つことでモチベーション向上に繋がるのではないかと期待しています。

保育士の確保難と言われる中、当園はおかげさまで職員を確保できている現状で、そのことが質の良い保育や職員のゆとりにもつながっています。この環境を維持していくためにも、数ある保育園の中から選ばれる保育園になるために、広報活動にますます力を入れていければと考えています。

(二葉くすのき保育園 広報委員会)



COLUMN

ICT化、DXに想う③「ICTの功罪」

自立援助ホームトリノス ホーム長 相原 信一

トリノスの利用者や元利用者は仕事上の必要もあるためスマホ所持は当たり前で、連絡には無料で使えるLINEが大変役立っています。特にアフターケアでは、誕生日祝いの送信や、一人暮らしの元利用者にも連絡しても既読にならないことが続くと自宅訪問するなど、無くてはならない連絡ツールとなっています。

一方、課金制ゲームや出会い系SNSで失敗してしまう利用者も少なくありません。リアル交友関係が乏しいためネットゲームでの交流にはまって大金をつぎ込んでしまったり、優しくされた経験が少ないため金銭目当ての女性の甘い言葉に騙されてしまったりすることもあります。

職員は、利用者に定例会議などで注意・指導を重ね、トラブルの際は一緒に考えながら支援していますが、マニュアルなどなくてもアプリなどすぐ使いこなしてしまうデジタルネイティブ世代の利用者についていくのも大変です。最近は闇バイトについての注意喚起も欠かせず、ICTの功罪を身に染みて感じています。



二葉むさしが丘学園では現在有志の職員で「IT活用ワーキンググループ」を発足し、話し合いを重ねています。立ち上げのきっかけは、他業種から転職し入職した峯尾さんの呼びかけです。寮職員は交代制勤務の下、職員間の連絡が主に電話やメモ用紙によるもので、伝言も多いこと、その中で伝え間違いや連絡の失念が度々生じていること等を問題視し、職員間のコミュニケーション力アップのため、IT活用が必要だと感じたことです。IT活用に向けての仲間集めや多くの職員による合意形成の道のりは大変ですが、現在は少しずつうまく回り始めており、グループウェアの試行導入に向けて調整を重ねています。

峯尾さんは「IT化の議論は個人が様々な考えや行動パターンを持っているため、0か100かではなくその

どこかで落としどころを見つけることが重要であり、また新しい現実を実現するためには、共感や理解を得るプロセスが大切であった」と振り返ります。当面の目標としてはIT活用に向けたルールを作り、多くの人に使用してもらうことと述べます。またワーキンググループメンバーの土江さんは、学習支援の場面で職員も中学・高校の勉強について忘れてしまっていたり、うまく教えることができなかつたりするときに子どもと一緒にAIやアプリを導入することで学びのハードルを下げることでもできるのではと話します。そういった子どもたちの豊かな育ちに繋がるようなアイデアもこのワーキンググループで話していければと期待しています。

(二葉むさしが丘学園 峯尾 敏幸・土江 貴士
インタビュー：法人本部 竹村)



COLUMN

ICT化、DXに想う④「ICTとの正しい共存をめざして」

(株)プロフェッショナル・ネットワークス(「プロネット」) 代表取締役社長 島倉 農

2023年の夏ごろより、貴法人内(以下敬称略)のICT化・DX化の更なる推進に向け、これまでの知見を活かしアドバイスをさせていただいております。ここ数年で、皆様の働き方は大きく変化していることと存じます。2020年以降、法人内におけるICT化の加速により、管理するPCやタブレットなどの台数が急激に増えております。当然ですが、管理するICT機器が増えているということは、法人内の皆様が毎日のようにそれらを活用しながら業務を推進されているということになります。

ICT化は、皆様の業務推進が非常に便利になる反面、コンピュータウイルスや外部からの攻撃に対する対策、なりすましなどによる業務妨害など、様々な脅威と向き合う必要があります。ICT機器の導入以降、操作方法を学び利用することを最優先しておりましたが、今後は皆様ひとりひとりが「正しい利用方法」を学び、実践することでICTとの共存が正しく行われると思っております。インターネット上にあるソフトウェアはすべて安全なものではありません。コンピュータウイルスが埋め込まれている可能性はゼロではなく、ダウンロードし起動すると法人内のネットワークがウイルス感染してしまうことがあるかもしれないのです。

システムとしてこのような脅威から法人内を守るよう努力いたしますが、最終的にはそれらを使う皆様のリテラシーがとても重要となります。ぜひ、更なる働きやすい環境づくりをめざして、私も含めて皆様でITリテラシーを成長していきましょう。



* 島倉社長は新宿区にある企業のプロボノ活動として当法人に専門的助言をくださっています。
プロネット社については右記 QR コードから御覧いただけます。

<<二葉トピックス>>



2024年10月17日-18日 東京チーム優勝に二葉学園職員の選手活躍！



二葉学園には野球の名選手である職員達がい！子どもたちも日頃から、ともに野球に親しみ楽しんでいきます。

この度、関東地区児童福祉施設職員軟式野球大会で、二葉学園の赤瀬主任が監督として率いる東京職員チームが見事優勝を成し遂げました。特に決勝は雨降る中の激闘となりました！

選手一同は野球を通じて関東の他施設職員との交流を広げることができました。この日は終身名誉監督(常務理事)とともに、至福の祝杯を味わったことでしょう！



2024年10月27日 外国籍のプレママ・パパ向け広場

二葉乳児院の子育て広場では、0～2歳児とその保護者の皆さんに加え、プレママ・パパを対象とした妊娠期からの支援にも力を入れています。

その一環として、外国籍のプレママ・パパ向け広場を初めて開催しました。ベテランの子育て支援スタッフ達に加え、地域で子育て中の先輩ママ達やボランティアさんの協力を得て、物心両面での赤ちゃんを迎える準備のサポートを企画しました。

外国籍の方達が、言葉や習慣の異なる日本で出産・育児を迎える不安や心配を和らげ、赤ちゃんとの生活をおくっていかれるよう、今後も開催していきます。(次回は3月開催予定です)



2024年10月20日 里親支援月間の取組み(練馬まつり 等)



里親月間(11月)を中心に、法人内で受託している各地のフォスタリング機関(東京都および特別区から受託)で里親制度普及のために様々なイベントを行いました。

写真は、今年度新設された練馬児童相談所の練馬フォスタリング機関(二葉むさしが丘学園で受託)の練馬まつりでの一コマです。

また11月9日に行われた練馬区での養育家庭(里親)体験発表会では個別相談ブースを設けて啓発活動を行いました。



2025年1月18日 法人新年会・永年勤続表彰・徳永賞贈呈

法人内事業所持ち回りで毎年開催の法人新年会を、今年は二葉むさしが丘学園で開催しました。

同園の調理スタッフによるホテル顔負けのサンドイッチやスイーツのもてなし、法人内事業所にちなんだ〇×クイズなどで盛り上がりました。(クイズの一例：「二葉くすのき保育園ではNHK『おかあさんといっしょ』の撮影が行われたことがある」⇒答えは× 撮影が行われたのは「英語であそぼ」でした。)

同時に、永年勤続表彰(今回の該当者は勤続10・15・25・30年の計20名)と、こどもたちのための実践に多大な貢献をされた工藤有子職員・海藤孝広職員(いずれも二葉むさしが丘学園)への徳永恕賞贈呈を行いました。工藤職員は二葉乳児院・二葉南元保育園を含めこどもと保護者・里親の支援、海藤職員は調理員としてこどもたちの日々の食事づくりに尽力されました。現在闘病中の工藤職員からのメッセージが代読され、参加者は深く心を打たれました。

理事長挨拶で二葉が125周年を迎えたことに言及がありましたが、その年頭に相応しい会となりました。



* 工藤さんのメッセージはこちらから御覧ください



2025年2月3日 節分

二葉南元保育園では毎年恒例の節分行事として豆まきを行いました。

こどもたちはドキドキしながら新聞紙で作った豆で「おには一外！」と赤鬼を退治しました。トラ縞模様のパンツを着用した保育士の鬼の姿も決まっていますよね。(頭はヒョウ柄みたいとか言わないでくださいね。)

立春を迎えても寒波が押し寄せてきて、冷え込む日でしたが、ホールいっぱいに広がるこどもたちの元気な声は、嫌なことをみんな追い払って、明るい春を連れてきてくれるでしょう！



「二葉支援の会」への寄付のお願い

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動をしています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金の税額控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

「二葉支援の会」 お問い合わせ

社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 03-3341-1205 (平日10時~17時)

E-mail info@futaba-yuka.or.jp

郵便振替

口座番号：00120-2-30321
口座名義：社会福祉法人二葉保育園

クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。

銀行振込

三菱UFJ銀行 支店名：四谷支店
口座番号：普通0506208
口座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 井上従子



この度、Syncable(シンカブル)のクレジットカード等寄付システムに変更しました。こちらのQRコードをご活用ください。マンスリーサポーターも募集中!

ご住所を入力する欄がないため、税額控除証明書をお送りできない場合がございます。銀行口座へお振込みの際は、お手数ですが法人本部へご住所をお知らせください。



社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
設立：1900年(明治33年)
理事長：井上 従子
常務理事：武藤 素明
理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、森本 裕美
評議員：宮沢 成美、磯谷 文明、潮谷 恵美、園 武友、関原 陽子、貫名 通生、浦上 充、竹内 よし子、橋本 ゆかり
監事：馬場 充、金子 恵美
職員：4名

二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長：都留 和光 副院長：長田 淳子
児童定員：40名 職員：130名
所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要
児童定員：58名(グループホーム8ヶ所を含む)
職員：100名
所在地：本園 〒182-0035
東京都調布市上石原2-17-7

二葉南元保育園

園長：橋爪 主税
児童定員：110名 専用型一時保育：10名 職員：43名
所在地：本園 〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美
児童定員：97名 職員：42名
所在地：〒182-0022
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号棟

二葉むさしが丘学園

園長：菅原 淳史 副園長：渡辺 剛史
児童定員 本園：54名(一時保護6名を含む) } 職員：82名
グループホーム：24名
ファミリーホーム：6名
所在地：本園 〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1

自立援助ホーム トリノス

ホーム長：相原 信一
児童定員(男子)：6名 職員：5名
所在地：東京都日野市
(成人を含む利用者の住所地となっているため非公開)

二葉とこども38号 2025年 3月15日発行 編集・発行 社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」

〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地 TEL：03-3341-1205 法人本部事務局 <https://www.futaba-yuka.or.jp>

